



大豆 No.2

のう じ でん そう 農 時 電 送

J A 新はこだて若松支店、J A きたひやま、J A 今金町
檜山農業改良普及センター檜山北部支所 TEL 84-5514

今後の大豆の病害虫防除について

茎葉が繁茂しほ場の風通しが悪くなると、病害の発生も多くなります。ほ場の開花状況を確認し、適期防除に努めましょう。前回送付の農時伝送（今後の技術対策）も参考にマメシンクイガ等の防除もしっかり行いましょう。

近年、一部のほ場で紫斑病の発生が確認されています。

紫斑病（大豆の種皮に紫色のシミ）は、種子感染または空気感染で広がります。発生すると、製品の等級を下げる原因となります。種子消毒に加え、茎葉散布により病気の感染を防ぐことができますので、発生が確認されているほ場では必ず防除を行いましょう。

大豆（トヨムスメ）の生育は7月15日現在で平年より2日遅れです。

開花始：（平年7/17）、開花期（平年7/23）品種により前後します。

***開花始・・・開花した株がほ場全体の5%に達した時期**

☆主な病害の防除体系例

1 紫斑病

	防除時期	薬 剤 名	倍率	使用時期	回数
1回目	開花始の 10～15日後	プライア水和剤	1,000	収穫 14日前	4
2回目	1回目の 10日後	アミスター20 フロアアブル	2,000～3,000	収穫 7日前	2

* 紫斑病に効果の高い薬剤は、プライア水和剤1,000倍 \geq アミスター20フロアアブル2,000倍 $>$ ファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍

2 菌核病：開花期頃が20℃前後で多湿条件が続くと多発

葉や茎に白い綿状のカビを生じ、黒色の菌核を形成。

	防除時期	薬 剤 名	倍率	使用時期	回数
紫斑病 1回目 と同時	開花始の 10～15日後	ファンタジスタ 顆粒水和剤	2,000	収穫 7日前	3
		----- または スミレックス 水和剤	1,000～2,000	収穫 21日前	4
		----- または プライア水和剤	1,000	収穫 14日前	4

3べと病：湿度の高いときや風通しの悪いほ場で発生が多く見られます。
主に葉を侵し不規則な1～2mmの黄白色小斑点が生じます。

防除時期	薬 剤 名	倍率	使用時期	回数
【黒大豆】 開花期の1回散布	プロポーズ顆粒水和剤	1,000	収穫 21日前	2
【白大豆】 発生を見て散布 (いずれかの剤を選択し 同じ剤は連用しない)	-----または----- リドミルゴールドMZ			
		500	収穫 45日前	3

※ リドミルゴールドMZは、使用時期（収穫前日数：45日前まで）に注意してください。

☆マメシクイガの防除について

大豆は開花期を迎え、早生の品種やは種が早かったほ場では莢伸長の時期となり、マメシクイガの防除時期です。

マメシクイガの発生は年1回、成虫の移動能力は低く、土中で越冬するため大豆を連作すると急激に増加します。連作ほ場や前年の大豆作付ほ場に近いほ場では、注意が必要です。

適期防除に努め、被害を最小限に留めましょう。

防除のポイント

① 防除時期：開花期の2～3週間後（産卵初発期）に1回目の防除

成虫発生時に莢があれば産卵するため、品種の早晩生やほ場の生育状況によって産卵時期が変わります。

② 防除薬剤（例）：1回目 ピレスロイド：効果が高く、残効が長い
2回目 有機リン：浸透移行性がある

*1回目をプレバソフロアブル5（効果が高く、残効が長い：2週間程度）とし、早めに防除を行う方法もあります。

系 統	薬 剤 名	残効性	接触毒	食毒	殺卵	倍率	使用時期	回数
ピレスロイド	ゲットアウトWDG	中	○	×	×	3,000	収穫7日前	3
	アディオン乳剤	中	○	×	×	3,000	収穫7日前	3
	バイスロイド乳剤	長	○	○	×	1,000 ～2000	収穫7日前	3
有機リン	トクチオン乳剤	中	○	○	×	1,000 ～1500	収穫30日前	3
	スミチオン乳剤	短	○	○	○	1,000 ～1500	収穫21日前	4
	サイアノックス乳剤	短	○	○	○	1,000	収穫7日前	2
ジアミド	プレバソフロアブル5	長	○	○	×	4,000	収穫7日前	2

○●農薬の適正使用・飛散防止に努めましょう●○